

インド

景気回復ペースは鈍化

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

副主任研究員 熊谷 章太郎

E-mail: kumagai.shotaro@jri.co.jp

■新型コロナの変異種への警戒を理由に活動規制を継続

2020年半ば以降、ロックダウンの段階的な緩和を背景に、インド景気の持ち直し傾向が続いている。また、感染沈静化を受けた今後の活動制限の緩和への期待や世界的な株高等を背景に、代表的な株価指数である SENSEX は 2021 年 1 月に過去最高値を更新した。しかし、ソーシャルディスタンスをはじめとする活動規制が残存するなか、景気回復ペースは足元で鈍化している。

新型コロナの日次新規感染者数は、州をまたぐ移動制限の緩和を受けた各地への感染拡大に伴い、2020年9月に約10万人に急増した。それを受けて中央政府は厳しい活動制限を課す「封じ込めゾーン」の指定範囲を拡大し、一部の州政府も独自の夜間外出禁止令やマスク未着用者への罰金等の対応策を導入した。そのため、商業地への人出や公共交通機関の利用者数は2020年末にかけて再び縮小し、2020年12月のPMI（購買担当者指数）は製造業・サービス業ともに前月から低下した（右図）。

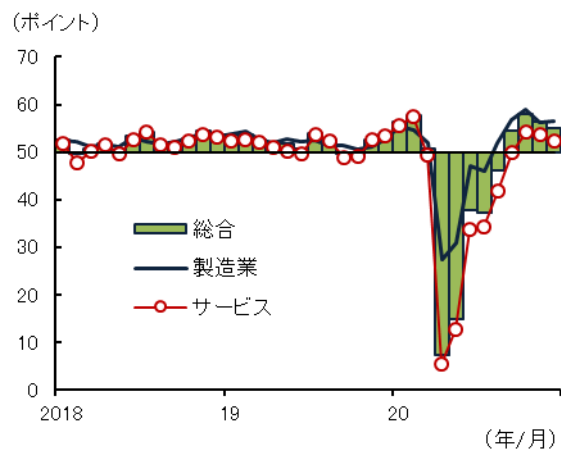
感染拡大抑制に向けた活動規制等により、新規感染者数は足元2万人前後に減少している。しかし、各国の感染再拡大や英国等で広がっている感染力の高い新型コロナの変異種が国内で確認されるなか、政府は2020年末が期限となっていた活動規制を1月末まで延長する方針を示す等、ロックダウンの緩和に慎重な姿勢を示している。貨物便と特別便を除くインド・英国間航空便の全面停止やマハラシュトラ州政府による年末年始の夜間外出禁止令の発令等を踏まえると、感染状況に応じて活動制限がさらに厳格化される可能性もあると見ておくべきであろう。

■新型コロナのワクチン接種を開始

こうしたなか、政府が再び活動規制を緩和させるタイミングは、新型コロナのワクチンの供給動向に左右されることになる。2021年1月初、政府は地場企業と英国製薬企業が開発した2種類のワクチンの緊急使用を許可し、同月中旬に他の新興国に先駆けて接種を開始した。まず、約3,000万人の医療従事者に対してワクチンの優先接種を行い、その後今年半ばにかけて50歳超の人々を中心に約3億人へのワクチンを供給することを計画している。ワクチンの早期普及には低温輸送や保管設備の拡充、注射器増産等も不可欠であるため、政府は民間企業と連携してコールドチェーンインフラの整備や医療機器の生産ラインの拡充を進めている。また、ワクチンの接種状況の管理に向けてスマートフォン向けのアプリを活用することも計画している。

インドはワクチンの共同購入と分配の国際的枠組みである「COVAX ファシリティ」を通じて他の新興国にワクチンを供給することも予定しているため、同国のワクチン生産・供給体制が計画通り整備されるか否かは他の新興国の景気動向を展望するうえでも重要なポイントとなる。

＜PMI（購買担当者指数）＞



(出所) IHS Markit

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。